

## 生きる希望を与えてくれた税制度

みよし市北中学校3年 竹内 希彩

私には障がいのある姉がいます。身体と知的の両方に障がいを持っています。

姉に障がいがあると分かり、母はとてもショックを受けたそうです。姉の将来を悲観し、自分が死ぬときはこの子と一緒に連れて行こうと、そればかり考えていたそうです。しかし、泣いてばかりいる母に福祉課の人が、国はこの子を絶対に見捨てないよ、と今使える福祉サービスや将来使えるであろう福祉サービスを詳しく説明してくれ、国もこの子の人生を守っていくから、お母さんはこの子が誰からも愛される子になるように子育て頑張っね、と言ってくれたそうです。

それからの姉は障害者医療費助成制度を使わせていただき、病気の治療や手術をしたり、様々な機能訓練を頑張る日々を送ることができています。障がいがある人達にとっては、私達健常者が普通にできること、簡単にできていることがとてつもなく難しく、訓練が必要になります。姉が歩く訓練、手を使う訓練、話す訓練などを頑張っている姿を私は昔から見てきました。時には泣きながら訓練をしている姿も見てきました。そんな姉は今では不安定ながらも歩くことができるようになり、不器用ながらも自分でご飯を食べることができるようになりました。そして、コミュニケーションに困らない程度に会話をすることもできます。三歳の頃病院で、この子は歩くことも話すこともできないと思います。と言われていたことを思えばとても大きな成長です。家族みんなで頑張ったからだよねとよく周りの人に言っていたことがあるそうですが、母は、税金を使わせていただいて訓練を頑張ることができたことが本当に幸せなことだと思っているよ、とよく私に言います。

そして、今後いよいよ母が亡くなり、姉が自分で生きていく時がだんだんと近づいてきています。でも、今の母は姉を連れて一緒に死のうとは考えていません。どんな重い障がいがあっても「生まれてきてよかった」と思える人生を姉に送ってほしいと強く願い希望に満ち溢れています。

死ぬことばかり考えていた母が、福祉課の人に言われた「国が守ってくれる」という言葉に勇気づけられ十年前に障がいのある子供達のための施設を立ち上げました。その母の施設では、多くの制度や人に助けてもらっていることに感謝をしながら、重い障がいのある子供達にもできる社会貢献をみつけていきたいと常に考えているそうです。

姉は今後障害年金をいただいて生きていくことになると思います。多くの人に支えていただき多くの制度に守られて幸せな人生を送ることができるのではないかと想像します。家族として姉のそういった姿を想像できることはとても幸せなことだと思います。

私はこれから、多くの人を救ったり勇気づけたりする税についてもっと勉強をし、社会全体で社会を支える仕組みの一員となれるように頑張っていきたいと思います。